

感染症分野

研究領域

「開発途上国のニーズを踏まえた感染症対策研究」

採択年度	2020年	研究期間	5年間
研究課題名	ミャンマーにおける革新的AMRサーベイランスシステムの構築とAMR診断技術の開発研究		貢献する主なSDGs 
研究代表機関	順天堂大学 大学院医学研究科		
相手国	ミャンマー連邦共和国	主要相手国研究機関	ミャンマー国立衛生研究所
研究課題の概要			
<p>地球規模で拡大している薬剤耐性菌(AMR)の克服は、人類が共同で取り組むべき最重要課題である。アジアにおけるAMRの実態は明らかになっていない。AMR克服には、日本とアジア諸国との学術的な連携が必須である。本研究の目的は、ミャンマー国立衛生研究所(NHL)と共同でAMRサーベイランスシステムを構築し、アジアで流行している薬剤耐性因子およびその伝播様式を明らかにすることである。継続的なサーベイランス実施のための診断技術を開発する。ミャンマーのAMRの実態を明らかにするために以下の項目を実施する。NHL及び16病院と共同で、実施可能なAMRサーベイランスネットワークを構築する。最終的にはミャンマーのナショナルデータを作製する。NHLのAMRセンターを整備し、全ゲノム情報に基づいた分子疫学サーベイランスを実施する。One Healthアプローチとして、7病院の周辺環境及び市中環境へのAMR流出を調査する。以上の研究を通じて、ミャンマーにおける本分野の人材確保・育成強化及び制度化の促進等の社会実装を達成する。</p>			